

マタイ 6 章 9～13 節 (: 9c) 「御名が聖なるものと」

「主の祈り」のことばの一つ一つの意味を考えながら祈りたいと願っています。また、私たちのいつもの祈りを、主の祈りに倣って祈るように変えられていきたいと願います。

前回は、主の祈りの最初、神様への呼びかけのことばについて思い巡らしました。今日は第一の祈り、「御名が聖なるものとされますように」という祈りについて思い巡らしたいと思います。

### 1. 順序とバランス

まず、主の祈りの全体の構成を簡単に確認します。神様への呼びかけの後に続く祈りは、あなたの御名、あなたの御国、あなたのみこころについての祈りです。前半の三つは神様に関することを思い巡らしている祈りです。そして、後半の三つの祈りは、私たちの糧、私たちの負い目、私たちを試みや悪からという、私たちの必要や願いについての祈りです。この順序とバランスから教えられます。

私たちの普段の祈りがこの順序とバランスを欠いた祈りとなっていないでしょうか。主イエス様は、自分の願いを祈ってはいけないとは言っていません。自分たちに関する課題を祈る前に、神様の御名、神様の御国、神様のみこころを思い巡らして祈るようにと教えているのです。

どうしてでしょうか。それは、まず神様に向かって目を上げることが大事だからです。全能者であり、主権者である神様を認め、その神様がいつくしみ深いお方であることを信頼するのです。そうするなら、直面している課題や状況に対する見方が変えられます。主に従う信仰が確認されて、その信仰によって吟味されて、自分の願いが整理されていくのです。

### 2. 御名とは

「御名」とはどのようなことでしょうか。神様のお名前ということですが、それは神様ご自身を指しているのです。御名を知る者は神様を知る者であり、御名を汚すことは神様を汚すことです。ですが、主イエス様は「神」とは言わずに「御名」と言われました。どうしてでしょうか。それは神様の御名によって私たちは神様のことを思い巡らすことができるからです。神様は名によってご自身のことを啓示してこられました。

たとえば、神様はアブラハムに「わたしは全能の神である」(創世記 17 : 1) と言われました。ご自身が全能であることを教えています。アブラハムは多くの子孫が与えられると神様から約束をいただいていた。でも子どもが与えられないまま 99 歳になっていました。人間的に考えればアブラハムと妻サラから子どもが生まれることは不可能なことでした。しかし、神様はご自身が全能であることを教え、ご自身に信頼し続けるように励ましたのです。

あるいは、神様はモーセに対して、「わたしは『わたしはある』という者である」(出エジプト 3 : 14) と言われました。その名が意味していることは、神様は永遠に存在しているお方、他のものによらずに自ら存在しているお方、そして、他の一切のものを存在させるお方であるということです。

あるいは、人々が主を様々な名で呼んだことも聖書に記されています。モーセは「主はわが旗」と呼び、ギデオンは「主は平安」と呼びました。ダビデは「主は私の羊飼い」と告白し、エレミヤは「主は私たちの義」と、エゼキエルは「主はそこにおられる」と預言の中で語りました。このような呼び名も、主の御性質や御業を表している神様の御名と言えるでしょう。

このように、神様の御名とは、神様の御性質、神様の御業を人に明らかにするために用いられています。神様はご自身の名によって、ご自身がどのようなお方であるかを私たちに啓示して来られたのです。そして、一つの名で神様のすべてを表すことなどできません。神様のすべてを私たちが捉え尽くすことはできません。でも神様は、様々な呼び名によって、ご自身のことを様々な側面から私たちに教えてくださるのです。そのすべてを含めて神様の「御名」と呼んでいるのです。

ですから、「御名が聖なるものとされますように」と祈るとき、私たちは、御名によって明らかにされてきた神様の御性質や御業が受け入れられ、賛美されますようにと祈っているのです。

### 3. 聖なるものとされますように

次に、「聖なるものとされますように」ということばについて考えたいと思います。新改訳 2017 で変更されたことの一つです。これまでは「御名があがめられますように」となっていました。「あがめる」と訳されていたのが、「聖なるものとする」と変更されました。

このもとのことばが使われている他の箇所では、そのほとんどで「聖なるものとする」とか「聖別する」と訳されています。ですから、「聖なるものとする」と訳すほうが統一感があり、同じことばが使われていると分かるようになります。それだけでなく、「聖なるものとする」とか「聖別する」ということばの意味は、神様のものとして特別に取り分けるといふ意味ですが、「あがめる」ではその本来の意味を十分には表していないのです。

ただ、「聖なるものとされますように」ということばは、一般ではその意味を正しく受け取れないでしょうし、どういうことを願っているのか分かりにくいかもしれません。しかし、分かりやすくするために原語の意味することを薄めてしまうのはみことばを誠実に扱うことではありません。また、一般ではあまり使われない表現であるからこそ、神様の御名が特別に取り分けられるようにという祈りのことばとして、むしろふさわしいのではないのでしょうか。そして、「聖なるものとされますように」と祈ることで、神様の聖ということ意識することになるでしょう。

「御名が聖なるものとされる」ために、私たち自身がこの祈りを自分の心からの願いとすることです。神様の御名によって啓示されている神様の御性質や御業のことを、私たちが信じて、告白することです。信仰を告白することは、ことばを通して自分を神様に献げることです。私たちが信仰を告白するとき、私たちの心を神様に献げるのです。ですから、そのことによって私たちが神様のものとされ、信じ告白されている御名が聖なるものとされるのです。

さらに、「御名が聖なるものとされる」ことを心から願う人は、その祈りを自ら実行する人でもあります。どのようにして実行するのでしょうか。それはまず、神様を礼拝することを通してです。レビ記の中にこのような主のことばがあります。「わたしに近くある者たちによって、わたしは自分が聖であることを示し、民全体に向けて わたしは自分の栄光を現す」(10:3)。主の近くにあり、主を礼拝し、主に仕える者たちによって、主はご自身が聖であることを示されます。私たちがみことばに聞き従い、信仰を告白して主を礼拝することで、そして、礼拝順序の一つ一つにふさわしく、誠実に関わることで、御名が聖なるものとされるのです。

また、「御名が聖なるものとされる」ことは、礼拝によってだけでなく、信仰者たちの生活を通して実現します。私たちはイエス・キリストを信じて、罪を赦していただき、神様の子どもとしていただきましたが、完全な人になったわけではありません。罪の性質が残るかすのようであって、罪を犯してしまうことがあります。神様を信頼しきれずに他のものに頼ろうとしたり、みことばに聞き従うよりも自分の思いのままに行動したり、神様を忘れて世の人々と同じように生活したりすることがあります。

ですから、「御名が聖なるものとされますように」と祈り、その告白の通りに生きられるように神様の助けを願い求めることが必要です。御名によって教えられている神様を信頼し、神様に従い、あるいは神様の御名を汚す罪を犯さないように願い、祈りながら歩むことが必要です。そのようなキリスト者たちの生活を通して、「御名が聖なるものとされ」ていくのです。

I コリント 10 章 31 節。聖なる神様にふさわしくないことを捨てて、ただ神様の栄光が現れることを願って行動することが命じられています。私たちもそのように歩みたいと願いますが、私たちの力で実現できるものではありません。神様が私たちの歩みを助けてくださり、用いてくださって、ご自身の御名の聖なることを表してくださらなければ実現できません。ですから、「御名が聖なるものとされますように」と祈り、私たちが自らを差し出しつつ、神様が私たちを聖別してくださることを願い、祈るのです。

主イエス様は主の祈りを教えてくださり、私たちにどのように祈ったら良いかを教えてくださっています。私たちには祈りたい願いや課題があります。でもまず、神様を見上げ、神様の御名によって教えられている神様の御性質や御業を思い巡らすことが大事です。そうして、私たちの信仰が整えられ、願いが吟味されて、祈りが導かれていくのです。

そのためにも、私たちは聖書から神様の御名について、神様の御性質や御業について、さらに知らせていただきましょう。神様のことを知らせていただくと、神様への祈りが変えられていくでしょう。

そして、「御名が聖なるものとされますよう」と祈る私たち自身が、主を信頼し、信仰を告白していきましょう。主への礼拝をふさわしく献げ、御名を汚す罪を犯さないように、そして、私たちの生活を通して主の栄光が現されることを願い、主の助けを祈り求めましょう。